



目次

◆ブロックからのお知らせ.....	1
■2026 年度日本野鳥の会近畿ブロック会議報告.....	1
■2026 年度日本野鳥の会北海道ブロック協議会総 会議事録.....	2
◆事務局からのお知らせなど.....	4

■連携団体（支部等）向け卸販売をご利用ください.....	4
■会員数.....	4

◆ブロックからのお知らせ

■2026 年度日本野鳥の会近畿ブロック会議報告

【日時】2026 年 7 月 12 日（日）13：00～17：00

【場所】大阪ガス NEXT21

【担当支部】奈良支部

【参加者】29 名（和歌山県支部 2 名、滋賀 1 名、京都
支部 5 名、大阪支部 8 名、ひょうご 5 名、
奈良支部 6 名、財団 2 名）

【記録】箱田

【内容】

1 「財団普及室からの報告」 財団普及室 箱田敦只

①「探鳥会リーダー養成の今後について」

探鳥会リーダー養成テキストを使った研修会の実施状況を報告した。加えて今後の課題として、講師を養成し、研修会が持続的に開催できる体制を作ることや、探鳥会リーダーのやりがいや楽しさを PR しリーダー予備軍の育成を行っていく。

②「今年度のツバメの巣見守り感謝状」

資料を配布し、今年度の結果について報告した。

③「ゴミ拾い探鳥会」

資料を配布し、ゴミ拾い探鳥会の実施を呼びかけた。

2 「大阪府城におけるコアジサシ・ベニアジサシ・セイタカシギの動向」 大阪支部 納家仁

夢洲から新島にかけて生息域が広がり、2024 年には 2400 羽まで増えたコアジサシは、その後 2026 年には 150 羽まで減少した。

ベニアジサシについては、2013 年にコアジサシに交じって 6 ペアが繁殖に成功したが、2014 年には大阪府レッドリストで「純絶滅危惧種」に指定された。

セイタカシギについては、2021 年に夢洲で繁殖に

成功し 2025 年の万博開催中も繁殖数が増えており、夏鳥として定着しようとしている。

これらのことを、「大阪自然史フェスティバル 2026」でシンポジウムを開催する予定である。（11/15 14 時～16 時）

3 「2026 年度 アジュール舞子でのコアジサシ・チドリ類の保護活動について」 ひょうご 小林由香

アジュール舞子は、明石海峡大橋のたもとに作られた人工的な砂浜で、海水浴場でもありながら、年間を通じてイベントも開催されている。砂浜にはコアジサシの営巣地が 2 箇所ある。六甲アイランド沖の人工島では 1,000 羽単位のコアジサシが観測されており、六甲アイランド沖の人工島であふれてしまったコアジサシがアジュール舞子に来ていると思われる。

2015 年から繁殖が確認されるようになったが、2025 年はキツネによって卵が食べられ繁殖は失敗に終わった。そこで、2026 年度はキツネ対策のためにネットを設置し効果が上がっている。カメラマン対策としては、立ち入り禁止エリアを設置してもらい、カメラマンにも理解を求めている。

また、イベント参加者に「オンラインフォームによる個別カウント」を依頼したり、月 2 回の営巣調査を行っている。このほか一般向けに「砂浜の鳥の調査体験会」の参加者を募集したところ、定員 10 名に対して 9 人の応募があった。

4 「京都府の傷病鳥類救護体制の変更とそれに伴う問題点」 京都支部 梶田学

京都府の傷病鳥類救護体制が 2026 年度から変更された。これまでは野生鳥獣救護センター、福知山動物園、および指定動物病院対応していたが、野生鳥獣救護センターは廃止され、京都府または京都市の指定動物病院が対応することになった。指定動物病院の中には、犬猫専門で鳥類は専門外という獣医が多く、鳥を救護してもらうことが難しくなっている。

5「高島新旭野鳥センターのその後（報告）」 滋賀 戸村隆

昨年報告した高島新旭野鳥センターは、今年4月に閉鎖された。三日月知事の4選を受けて、知事自身がかつて日本野鳥の会の会員だった「良き理解者」でもあることから、「三日月知事4期目への提言」を現在とりまとめているところであり、その内容を次回に発表したい。

6「和歌山県鳥類目録更新の現状と問題点」 和歌山 県支部 中村進

和歌山県支部では、2018年度版の内容に2018年以降の記録を追加しつつ「日本鳥類目録改訂第8版」に準拠した種の分類・配列とする形で改訂作業を進めている。その過程でいくつかの問題にぶつかった。

- ・種名の表記が「半角カタカナ」になっており、「全角カタカナ」への変更が必要。
- ・西暦年号が「2桁表記」（'96＝1996年）になっているが、2000年以降のデータもあるので「4桁表記」への変更が必要。
- ・地名が市町村合併で変わっているが、どう処置すべきか。
- ・観察頻度は、「紀北」「中紀」「紀南」地域によって生息状況が大きく異なっている。
- ・繁殖状況は、どこまでを繁殖として扱うか？「数回しか記録のない鳥」をどう扱うか？
- ・分類順について、在来種と外来種を分けるのはなぜ？植物や昆虫の分類では分けていない。

7「コアジサシの繁殖と保全活動 2026」 奈良支部 山田瑠美

奈良市内では、2020年から平城宮跡の朱雀門南側の砂礫地でコアジサシが営巣している。支部では2020年以降、奈良県の担当部署とのコミュニケーションを維持しており、申し入れや知事あての要望書の提出を行った結果、工期の延長などにより営巣地が保全されてきた。

2022年4月には「平城宮コアジサシ見守り隊」を立ち上げ、コアジサシの生態の観察、繁殖に悪影響を及ぼす恐れのある行為を控えるようにカメラマンに声掛けをしてきた。

「コアジサシ営巣地の保全」を求める署名活動では「紙面456名、オンライン982名、合計1,438名」の賛同が得られた。日本野鳥の会本部や近畿ブロック各支部の支援も受けながら「平城宮跡南駐車場予定地の西側コアジサシ保全エリア存続」の要望書をまとめ、遠藤理事長との連名で奈良県知事・県担当部署および奈良市長宛で、署名も添えて提出した。

8「近畿ブロック会議の今後の運営について」

幹事支部は、大阪、兵庫、京都、滋賀、和歌山、奈良の順に、1年ごとの輪番制とする。会場は「大阪NEXT21」とし毎年7月に会議形式で実施する。時期的なこと（梅雨、暑さなど）を考慮し探鳥会は実施しないことにする。

以上

（普及室／箱田敦只）

■2026 年度日本野鳥の会北海道ブロック協議 会総会議事録

【日時】2026年7月25日（土）～26日（日）

【場所】帯広の森・はぐくーむ（帯広市南9線49-1）

【担当支部】十勝支部

【参加者】29名（11支部＋財団）

オホーツク支部2名、根室支部2名、釧路支部1名、十勝支部6名、旭川支部4名、滝川支部1名、道北支部2名、札幌支部2名、苫小牧支部1名、室蘭支部1名、道南松山1名、財団（狩野副理事長、鶴居・伊藤サンクチュアリ1名、苫小牧グループ2名、春国岱原生野鳥公園1名、自然保護室1名）

【概要】

●7月25日（土）

（1）チュウヒに関する講演会 ※一般公開

13：00～14：30 （12：30 開場）

13：00～13：05 主催者挨拶（十勝支部支部長 室瀬）※演者紹介を含む

13：05～14：00 講演

①宗谷地方周辺のチュウヒの繁殖状況
（道北支部__長谷部真氏）

②日本及び北海道におけるチュウヒの現状
（自然保護室__稲葉一将）

14：00～14：30 質疑応答

（2）北海道ブロック協議会総会

14：50～14：55 開会挨拶他

14：55～16：00 議事の部

① 2025年度活動報告及び会計報告 札幌支部

② 監査報告 十勝支部

③ 2025年度各支部の活動報告

④ 2027年総会開催地及び開催地決定方法について

⑤ 十勝支部からの事務的提案：支部報のPDF送信等について

⑥ その他

16：10～17：00 財団からの報告

（3）夕食および懇親会

18：30～

●7月26日（日）

08：00 宿泊先発

09：00 長節湖探鳥会開始

10：00 終了、解散

【総会議事録】7月25日（土）14：50～17：00

●出欠確認：名簿に基づき出席者の確認

●開会挨拶：十勝支部支部長 室瀬秋宏

相談して意見交換したい案件もあるので、今後に向けてご意見いただければと思う。

●挨拶：財団副理事長 狩野清貴

総会前にサロベツ原野を含め道内を視察してきたが、北海道の広大さと各地の自然環境を実感した。対面で集まり具体的な話し合いを行うことは重要である。

●議事の部 議長：十勝支部支部長 室瀬秋宏

① 2025 年度活動報告及び会計報告 札幌支部（猿子）

- ・前年度繰越金：652,470 円：函館支部解散に伴う残金約 58 万円が加算された結果。
- ・収入：江別支部解散に伴い、150,000 円の寄付を受領。2025 年度ブロック総会の残金 10,805 円
- ・収入合計：821,125 円
- ・支出：24,900 円
- ・次年度繰越金（十勝支部へ引き継ぎ）：716,128 円

② 監査報告 十勝支部（室瀬）

領収証およびメールにて金額を確認し、適正かつ正確であることを確認

- ・負担金、助成金の取り扱いについて：残高が潤沢なため、当面は各支部からの負担金の徴収を停止することで合意。財団からの助成金についても、当面は受け取りを辞退する方針とし、必要時に財団窓口へ申請する形とする。

③ 十勝支部からの事務的提案：支部報の PDF 送信等について

- ・郵便料金の値上げにより、紙媒体での支部報発送コストが増大している。
- ・財団に支部報 PDF を送付すれば、財団から全支部へメール配信されるので、各支部への紙媒体の発送を停止し、財団経由の PDF 配信に切り替える。室蘭支部はすでに PDF 配信を実施しているが、財団への送付は行っていなかったため、今後はそのようにする。十勝支部は次号より各支部への紙媒体発送を停止する。支部報の配信方法については各支部の判断で対応する。

④ 2027 年総会開催地及び開催地決定方法について
開催担当支部の一覧を確認したところ、2 回担当の支部と 3 回担当の支部があり、2 回の地域で実施するのが妥当ではないか。

- ・開催に伴う事務作業（資料作成、宿手配、会場確保、案内状送付、名簿管理等）の負担が大きく、持ち回り制の継続が困難になっている。
- ・毎年開催から「隔年～数年に 1 回」への変更はどうか？
→財団規約により年 1 回の開催が義務付けられているが、形式（対面、ZOOM）は問わない。
- ・財団からの情報提供：関東ブロックなど完全 ZOOM 開催もある。財団から ZOOM 開催の支援事例もある。
- ・オンラインであれば資料作成の手間は変わらないが、会場、宿手配、案内地図作成等の事務が大

幅に削減できる。

→ただし対面の交流、一体感が失われるという懸念もある。

- ・対面＋ZOOM 併用→手間が増えるため非推奨との意見あり。
- ・複数支部による合同開催（例：十勝、釧路、根室の 3 支部合同など）
- ・基調講演の廃止（必要性がある場合のみ実施）
- ・宿の手配は参加者各自で行えば、主催側の負担は軽減
- ・室蘭支部：開催の意思はあるが、現在人員不足で厳しい
- ・釧路支部：支部内で未検討のため、持ち帰って相談する。
- ・小樽支部：支部長の体調不良が続いており、当面厳しい。

今日の場では開催地を確定せず、道南松山支部が内部で検討の上、可否を回答する。懇親会の場で負担軽減策をさらに協議する。

⑤ 2025 年度各支部の活動報告

支部の活動を一括説明する形式は時間がかかり、配信される支部報を見れば活動は分かるため今後は、伝えたい内容がある支部のみ報告する形式に変更することで合意。※今回は懇親会の場で各支部からアピールする時間を取った。

- ・今後は財団から配信される支部報 PDF を各支部の活動記録として活用し、この報告書類の作成、編集、印刷の負担をなくす方向で検討する。
- ・各支部からの主な報告：
 - ：道南松山支部：年間 20 回の探鳥会を実施（クマ出没のため 1 回減）。参加者 9～27 名。津軽海峡フェリー探鳥会、七飯町ツバメねぐら入り探鳥会など特色ある活動を実施。春秋 2 回の勉強会も継続中。
 - ：札幌支部：会報 7・8 月号にて、内田康平氏（本日参加・興和）による「石狩湾を通過する海鳥類」の記事を掲載。会員から高い評価を得た。
 - ：道北支部：会員が広域に分散しているため、オンライン活動が中心。居住地が道北でない役員も活動継続中。自然共生サイトへの登録を実施。

●財団からの報告

- ①ウトナイ湖を中心とした流域の保全構想（苫小牧グループ 松本）
- ②シマフクロウ共存ルールの順守のお願い／保護事業のこれから（森づくりや情報収集）について（苫小牧グループ 松本）
- ③美々川の市街化調整区域規制緩和問題について（苫小牧グループ 和歌月）
- ④近況報告（鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ 石下）
- ⑤春国岱、根室周辺の近況（春国岱に関わる保護事業等の動き、野鳥情報）（春国岱原生野鳥公園 掛下）



(撮影：室瀬秋宏)

(鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ／石下 亜衣 紗)

◆事務局からのお知らせなど

■普及室より

■連携団体（支部等）向け卸販売をご利用ください

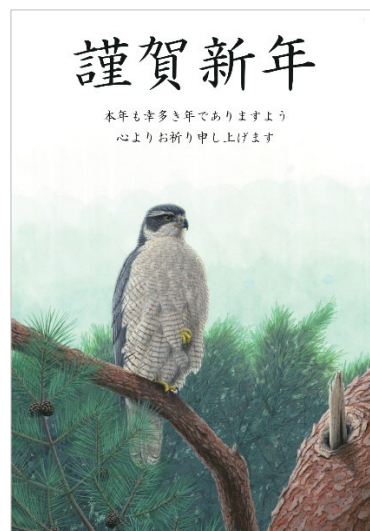
通販カタログ「バードショップ」2026 秋冬号が発行となりました。会員の皆さまには、会誌『野鳥』9・10月号に同封してお届けしております。販売事業ご担当の皆さまには、連携団体（支部等）向け卸販売のご案内と合わせてお届けします。販売を通じて、バードウォッチングや自然保護の輪が広まるとともに、販売収益が支部活動の一助となれば幸いです。ぜひご活用ください。

●おすすめ新商品

当店限定のオリジナル野鳥ポストカードに、新絵柄「エナガ」「オオタカ」が新登場！

昨年に引き続き、実際に切手を貼って送るポストカード仕様です。野鳥ファンへのお便りやコレクションにもおすすめです。

1 セット 20 枚入り 1,100 円（税込）～



●支部卸販売のご注文、お問い合わせ

普及室 販売出版グループまでお願いいたします。

FAX：03-5436-2635 Email：r-hanbai @wbsj.org

（普及室／森谷 机珠瑠）

■総務室より

■会員数

9 月 1 日時点の会員数は 32,951 人で、先月と比べ 11 人増加しました。

8 月の入会・退会者数（表 1）をみると、入会者数は退会者数より 46 人多くなっています。

8 月 1 日付の入会者数は 158 人で、前年同月の入会者数 116 人と比べ 42 人増加しました。

また、8 月末日付の退会者数は 112 人で、前年同月の退会者数 128 人と比べ 16 人減少しました。

なお、会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

表 1. 8 月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	11 人	4 人
総合会員（おおぞら会員）	31 人	28 人
本部型会員（青い鳥会員）	20 人	20 人
支部型会員（赤い鳥会員）	65 人	46 人
家族会員	31 人	14 人
合計	158 人	112 人
年度累計	991 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活する方がいらっしゃるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数とずれた数字となります。

※上記集計は速報値になります。

●都道府県および支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表2. 都道府県別の会員数（9月1日時点）

都道府県	会員数	対前月差
北海道	1,591 人	2 人
青森県	201 人	1 人
岩手県	316 人	0 人
宮城県	545 人	4 人
秋田県	228 人	0 人
山形県	212 人	1 人
福島県	485 人	0 人
茨城県	816 人	1 人
栃木県	781 人	-4 人
群馬県	592 人	0 人
埼玉県	1,907 人	3 人
千葉県	1,420 人	5 人
東京都	4,750 人	-13 人
神奈川県	2,989 人	-8 人
新潟県	336 人	-1 人
富山県	182 人	0 人
石川県	278 人	0 人
福井県	222 人	1 人
山梨県	242 人	1 人
長野県	827 人	-2 人
岐阜県	471 人	0 人
静岡県	1,165 人	-5 人
愛知県	1,593 人	-5 人
三重県	454 人	-2 人
滋賀県	328 人	2 人
京都府	823 人	-2 人
大阪府	1,849 人	12 人
兵庫県	1,214 人	0 人
奈良県	474 人	2 人
和歌山県	196 人	-1 人
鳥取県	216 人	0 人
島根県	193 人	0 人
岡山県	515 人	2 人
広島県	551 人	0 人
山口県	273 人	-1 人
徳島県	319 人	2 人
香川県	210 人	2 人
愛媛県	314 人	2 人
高知県	94 人	0 人
福岡県	1,109 人	-1 人
佐賀県	227 人	-1 人
長崎県	206 人	1 人
熊本県	356 人	1 人
大分県	214 人	0 人
宮崎県	241 人	2 人
鹿児島県	294 人	3 人
沖縄県	63 人	1 人
海外	16 人	0 人
不明	53 人	6 人
全国	32,951 人	11 人

表3. 支部別の会員数（9月1日時点）

支部	会員数	対前月差
オホーツク支部	232 人	4 人
根室支部	71 人	0 人
釧路支部	137 人	1 人
十勝支部	203 人	1 人
旭川支部	114 人	0 人
滝川支部	37 人	0 人
道北支部	74 人	0 人
札幌支部	289 人	2 人
小樽支部	42 人	0 人
苫小牧支部	162 人	0 人
室蘭支部	112 人	-1 人
道南樺山	70 人	0 人
青森県支部	104 人	0 人
弘前支部	108 人	0 人
秋田県支部	216 人	0 人
山形県支部	202 人	1 人
宮古支部	75 人	-1 人
もりおか	136 人	1 人
北上支部	79 人	0 人
宮城県支部	513 人	4 人
ふくしま	118 人	0 人
郡山支部	153 人	0 人
白河支部	17 人	0 人
会津支部	51 人	0 人
奥会津連合	4 人	0 人
いわき支部	82 人	0 人
福島県相双支部	16 人	0 人
南相馬	18 人	0 人
茨城県	729 人	-1 人
栃木県支部	782 人	-4 人
群馬	526 人	-2 人
吾妻	46 人	0 人
埼玉	1,426 人	1 人
千葉県	848 人	3 人
東京	2,737 人	1 人
奥多摩支部	714 人	-5 人
神奈川支部	1,844 人	-9 人
新潟県	256 人	0 人
佐渡支部	46 人	0 人
富山	164 人	1 人
石川	257 人	0 人
福井県	210 人	1 人
長野支部	378 人	4 人
軽井沢支部	170 人	0 人
諏訪支部	237 人	-3 人
木曽支部	20 人	0 人
伊那谷支部	64 人	0 人
甲府支部	181 人	1 人
富士山麓支部	40 人	-2 人
東富士	56 人	0 人

沼津支部	119 人	-1 人
南富士支部	219 人	0 人
南伊豆	35 人	0 人
静岡支部	304 人	0 人
遠江	327 人	-3 人
愛知県支部	1,255 人	1 人
岐阜	445 人	-1 人
三重	409 人	-1 人
奈良支部	394 人	3 人
和歌山県支部	205 人	-2 人
滋賀	335 人	3 人
京都支部	791 人	-4 人
大阪支部	1,697 人	7 人
ひょうご	923 人	2 人
鳥取県支部	233 人	0 人
島根県支部	192 人	-1 人
岡山県支部	500 人	1 人
広島県支部	482 人	-1 人
山口県支部	246 人	-2 人
香川県支部	168 人	0 人
徳島県支部	337 人	2 人
高知支部	85 人	0 人
愛媛	294 人	0 人
北九州支部	224 人	0 人
福岡支部	510 人	1 人
筑豊支部	196 人	2 人
筑後支部	131 人	-1 人
佐賀県支部	310 人	-1 人
長崎県支部	181 人	0 人
熊本県支部	346 人	0 人
大分県支部	203 人	0 人
宮崎県支部	237 人	1 人
かごしま県支部	266 人	-2 人
やんばる支部	35 人	0 人
西表支部	54 人	-2 人
	27,854 人	-1 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。

これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

（総務室／鈴木 風香）

◆支部ネット担当より

いつも支部ネット通信をご愛読いただきありがとうございます。

大雨などのニュースに気をもむ日々が続きます。被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。くれぐれもご自愛ください。

今月号の北海道ブロック会議録記事内にも触れられているとおり、財団事務局では各支部報のメール配信をお引き受けしております。9月1日現在で、48支部50アイテムのPDF版支部報をメール配信しております。新規配信をご希望の支部がありましたら、下記アドレスまでお気軽にお問合せください。

支部ネット通信では、連携団体やブロックから全国の連携団体へ発信したい情報をご投稿いただき掲載することが可能です。投稿にあたって特に字数の制限などは設けていません。原稿は毎月5日頃が締め切り、25日頃発行となります。ご投稿は下記アドレスまでお送りください。

次号もどうぞよろしくお願いいたします。

日本野鳥の会

支部ネット通信

2026年9月号・通巻296号

◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2026年9月25日

◆担当

総務室 人事総務グループ

五十嵐真/川島麗子/深谷静流/原元奈津子

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL：03-5436-2620

FAX：03-5436-2635

E-mail：sibu-net@wbsj.org